
	横浜市立大曾根小学校		平成31年 1月31日
	<b>学校だより</b>		TEL 542-1785 FAX 541-0949

One for all , All for one

副校長 中里 充

1月12日(土)、全国大学ラグビー選手権決勝で明治大学ラグビー部が天理大学を破り、22年ぶり13回目の優勝を果たしました。明治大学ラグビー部といいますと、北島忠治総監督の「前へ!」という言葉が思い出されます。私は、この短いけれども奥の深い言葉である「前へ!」という言葉が大好きです。

ラグビーからは、たくさんのことを学ぶことができます。前述した「前へ!」や表題にした「One for all, All for one」、「ノーサイドの精神」などなど。私にはラグビー競技の経験はありませんが、テレビで試合をよく見ます。そしてたくさんのお影響を受けました。その影響は、以前担任していた子どもたちにまで大きく及びました。

20年前頃から『タグラグビー』というスポーツが体育学習のゲーム・ボール運動領域で盛んに取り上げられるようになりました。タグラグビーは、「One for all, All for one」のラグビーの精神が受け継がれ、身体接触がないことで男女関係なく誰でもボールに触れることができ、どの子どももトライをあげることが可能な運動です。私はこの学習では、仲間を生かし仲間に生かされるという信頼関係を築きながら、チーム競技ならではの楽しさや達成感を感じさせようと心掛けました。走るのが得意な子へは、「タグをとられるまで『前へ!』走れ!」「タグをとられたらすぐそばに仲間がいるからパスを出せ!」と。走るのがあまり得意ではない子へは、「ボールを持って走っている子の後ろをついていけば、必ずパスがくるぞ!」「パスをもらったら『前へ!』走れ!」と声をかけました。そしてOne for all, All for oneを子ども達に意識させて自分だけでトライを狙うのではなく、仲間を生かし仲間に生かされるパスをつないでトライすることで仲間との信頼関係を深めることを意識しました。また、ノーサイドの精神が身につくよう、勝ち負けを素直に受け入れ、公正な態度で最後には互いを認め合えるよう指導しました。



大曾根小の3年生も12月からタグラグビーの学習に取り組みました。私は職員室から飛び出して指導・支援したいという衝動を極力抑え、おとなしく参観しました。「一人はみんなのために、みんなは一人のために(本当の意味は少し違うようですが、私はこちらの方が好きなので)」という信頼関係を築き、仲間と共に作り上げる楽しさを味わってほしいなと思いながら。

ラグビーWカップイヤー。ラグビーの精神を再確認すると同時に、迫力ある選手たちのプレーに熱く盛り上がりたいですね。今年もよろしく願っています。